

東日本大震災犠牲者に捧げる

「鎮魂の歌」を作成

岩手県公立学校退職校長会

岩手県公立学校退職校長会（吉村暢夫会長、会員2320名）では、東日本大震災大津波で会員16名が亡くなり、多くの教え子たちも犠牲になった。また、岩手県公立小・中学校の児童生徒は、学校管理下においては奇跡的に犠牲者ではなかったが、自宅等にいた児童生徒は37名が亡くなった。当会では、犠牲者の霊を慰め、津波の恐ろしさを後世に伝えようと2月の理事会で満場一致で決定し、県下全会員に「鎮魂・復興の祈りの歌」の歌詞を募集した。早速、会員15名から19編の応募があり、歌詞選考委員会で釜石地区会員千葉隆男氏（77歳）の歌詞が選ばれた。併せて作曲も会

員からとし、6月12日盛岡地区会員太田代政男氏（67歳）に作曲を依頼し8月に完成し譜面が届いた。

震災で教え子を10人以上上亡くしたという千葉隆男氏は「津波で亡くなった人たちから『あなたは私たちをどう思っているのか』と聞かれている気がした。安らかに眠ってほしいという思いを込めた」と話している。

太田代政男氏は「震災で亡くなった教育者の友人のことが頭からはなれず、歌詞に込められた鎮魂の気持ちを格調高く、歌いやすく考えた」と話している。

9月14日の本会第39回県研修・親睦会花巻大会で地元の会員35名が斉唱で初披露した。また、「鎮魂の歌」のCDを花巻大会に間に合わせるように作曲完成後、急遽音楽専攻の会員が集まり収録し作成した。マスコミの報道もあり

CDは希望者等にお頒けすると共に岩手県小・中学校に無料配布した。

小・中学校では音楽の時間等で取り上げて歌い始めている。

11月5日県教委主催の「いわての教育の日」の集いにおいて、作曲した太田代政男氏の独唱、会員の小水内邦子氏の伴奏で参加者に披露した。また、11月22日岩手県中学校総合文化祭（於県民会館）で矢中町立矢中北中学校特設合唱部が初めて合唱で披露した。この歌は次第に広がりを見せしており、震災3年目の3月11日に歌うことを計画しているところもある。願わくば多くの皆様に歌われ続けることを祈っている。

東日本大震災犠牲者に捧げる

鎮魂の歌

作詞 千葉 隆男
補作 岩手県公立学校退職校長会

作曲 太田代政男

一、あゝ山揺れて海騒ぐ日
別れの言葉も交わさずに
急ぎ逝きたる親よ子よ友よ
たぐる想いに悲しみ寄せる
心鎮めて掌を合わせ
御慈光の霊界 安らぎたまえ
二、おお空晴れて雲遊ぶ季節
道辺のお地藏 微笑みかわす
霊界の親よ子よ友よ
挑む吾らが郷土復興
嘉したまいて前途に
真善美の花 開かせたまえ
三、さあ大業に 進みゆく今
吾らは忘れし 命もて
教訓遺せし 親よ子よ友よ
津波襲来 三月十一日
伝え誓わん 後世までも
御霊よ御霊 安らかにあれ

